

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	東京大学
整理番号	A-I-1
事 業 名	公共政策・国際関係分野におけるB E S E T Oダブル・ディグリー・マスタープログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) S	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を上回る成果をあげており、事業目的は十分に達成された。
(コメント)	<p>本事業は、東京大学、ソウル大学校、北京大学の3大学でコンソーシアムを形成し、東アジアの公共政策・国際関係分野におけるダブル・ディグリー・マスタープログラムを共同開発・実施することにより、3大学の国際的競争力を強化し、3カ国の異なる文化を理解する多文化的視点をもつ次世代のアジアのリーダーを育成することを目的としている。</p> <p>ダブル・ディグリー・プログラムの実施、短期ワークショップの実施、日本と韓国におけるインターンシップの実施、3カ国の法制度に基づく管理運営を基本としながら、内容を工夫することでの3カ国の共同教育プログラムの開発・実施、国際公募に基づく外国人教員の雇用、また民間からの資金を得ての学生支援の実施、学生がそれぞれ英語以外の言葉を学ぶ機会の提供、学生・修了生による自主的なトークイベントの開催など質の保証を伴った取組が着実に展開され、優れた取組状況であったと評価できる。</p> <p>目標の達成状況については、第一段階の単位互換を伴う交換留学・第二段階のダブル・ディグリー・プログラムも着実に実施され、派遣学生と受入学生についても目標を達成し、日中韓の学生交流による教育の質的充実の点についても当初の計画通り成果が上げられている。</p> <p>本事業はキャンパス・アジアの優れた成功モデルの一つである。各国の社会や文化を活かし、人材ニーズに応えようとする工夫も見られ、学生同士の主体的な活動や取組を生み出すなど学生の国際交流の質を高めることにも成功している。3大学間の信頼関係も十分に構築されており、今後の展開やグローバル展開力強化に大いに貢献するものと期待される。今後は更に英語による情報発信を強化し、ASEANをはじめとしたアジア各国や、欧米諸国からの学生を惹きつけるプログラムとして展開されることが望まれる。そのためにも、とりわけ将来のジョイント・ディグリー・プログラムへの挑戦が期待される。</p>